

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 住之江区

学 校 名 敷津浦小学校

学校長名 藤原 義裕

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・敷津浦小学校では、第6学年 59名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

【1. 正答率の状況】

国語の正答率は55.0%、算数は42.0%、理科は41.0%となり、いずれの教科も大阪府平均（国語65.0%、算数58.0%、理科55.0%）および全国平均（国語66.8%、算数58.0%、理科57.1%）を下回る結果となりました。特に算数・理科については平均より10ポイント以上の差があり、基礎的・基本的な学力の定着が今後の課題であることが示されています。

【2. 無回答率の状況】

また、無回答率についても国語10.9%、算数13.4%、理科15.8%と、いずれの教科も大阪府・全国の平均を大きく上回りました（大阪府平均はいずれも3%台、全国平均もおおむね3%前後）。特に理科では無回答率が15.8%と高く、問題に取り組む意欲や自信に課題がうかがえます。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

現状

言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、わが国の言語・文化、読むことの各分野で、本校の平均正答率は府・全国平均を下回っています。特に「情報の扱い方」では約20ポイント以上の差が見られました。

課題

- ・語彙の意味や使い方について十分に理解できていない児童が多い。
- ・文章や資料から必要な情報を読み取り、整理して活用する力が不足。
- ・読解力や文章の要点を把握する力が弱く、内容理解が浅い。
- ・日本語や日本文化への関心がやや希薄で、知識の定着も不十分。

【算数】

現状

数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用のすべての領域で本校平均正答率が府・全国平均を下回りました。測定（34.7%）や図形（39.8%）など特に基礎的内容で顕著な差を認めます。

課題

- ・計算力だけでなくその意味や活用方法の理解が浅い。
- ・図形や測定の内容が抽象的・単発的になりやすく、体験的理解が不足。
- ・グラフやデータを読み取り説明する力が弱い。
- ・数量や変化について考えたり、日常生活への応用力が十分養えていない。

【理科】

現状

粒子、生命、地球の各領域で、府・全国平均より10～20ポイント以上低い正答率となりました。特に生命を柱とする領域（33.5%）や粒子領域（37.3%）に低迷が見られます。

課題

- ・抽象的な科学概念（粒子や地球規模の現象、生命現象）の理解が不足。
- ・観察や実験経験が少なく、知識が表面的。

質問調査より

今回の児童質問では、児童の日常生活や学習、ICT活用の状況、教科への関心などについて調査を行いました。その主な結果は以下の通りです。

まず、多くの児童が毎日ほぼ同じ時間に就寝・起床しているものの、就寝時刻が全体的に遅くなっている傾向が見られました。また、授業時間以外で勉強する時間については、大阪府全体及び全国平均と比べて低くなっており、家庭学習の時間や学習習慣の定着が今後の課題として考えられます。

ICT機器（パソコンやタブレットなど）を活用して文章を作成したり、情報収集や整理を行ったりすることができる児童が多くみられました。さらに、収集した情報を使ってプレゼンテーションを作成できる児童も多く、ICT活用能力については大阪府および全国平均をいずれも上回る結果となりました。これは本校の特色の一つと考えられ、今後も子どもたちの主体的な学びのためにICTを活用できる機会を大切にしていきたいと思えます。

教科への関心では、「国語」や「算数」が好きと回答した児童が多くいました。一方で、「理科」が好きと答えた児童の割合は大阪府や全国の平均と比べて低い結果でした。理科の楽しさや面白さを感じられるような授業づくりが、今後の課題となります。

今回の調査結果をもとに、生活習慣や家庭学習の改善、理科への興味関心の向上など、今後の教育活動に役立てていきます。

今後の取組(アクションプラン)

【国語】

語彙力を高めるため言葉集めやクイズ、日常会話への活用を重視。
複数資料から情報をまとめる学習やICTを使った調べ学習、新聞づくり、話し合い活動を充実させる。
読書習慣を促進し、多様な文章への接触機会を増やす。
昔話や伝統文化の紹介、地域行事への参加を通じて、言語や文化への興味関心を涵養する。

【算数】

基礎計算練習やペア学習、具体物・ICT活用でイメージしやすい授業展開を行う。
図形や測定については、手を動かす活動・実測や工作・観察などを重視。
実際のデータを使い、集計やグラフ作成、発表活動を増やす。
買い物や料理など生活の場면을教材とし、数学的思考の楽しさに気付かせる。

【理科】

実験や観察、一人ひとりの「やってみる」「調べてみる」体験の機会を増やす。
ビオトープや学校菜園、校外学習を活用し、生き物や環境への興味を喚起。
地域や家庭と連携し、身近な現象（天気や環境、ごみ分別など）と結びつけて科学的思考を促進。

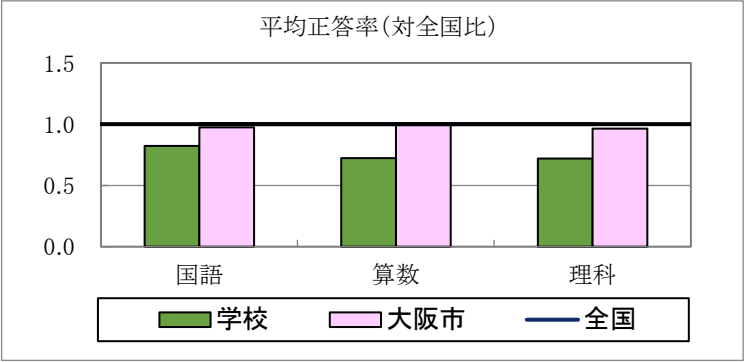
【全体を通して】

本校では全教科を通じて「基礎基本の徹底」に加え、「自ら考え、伝え合い、体験する」学びに重点を置いた指導を進めてまいります。また、家庭や地域社会との連携も大切にし、児童一人ひとりの学ぶ意欲と実感を引き出していきます。

【 全体の概要 】

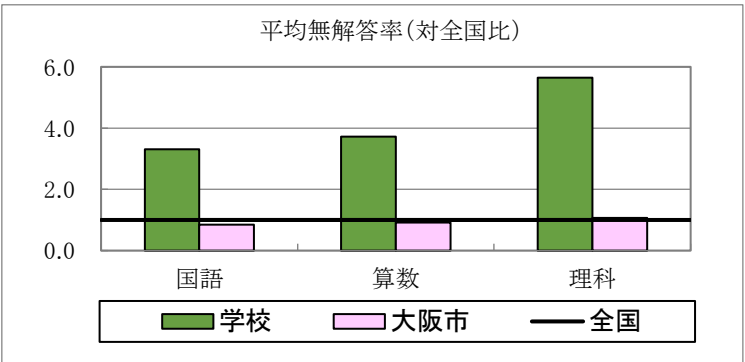
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	55	42	41
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	10.9	13.4	15.8
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

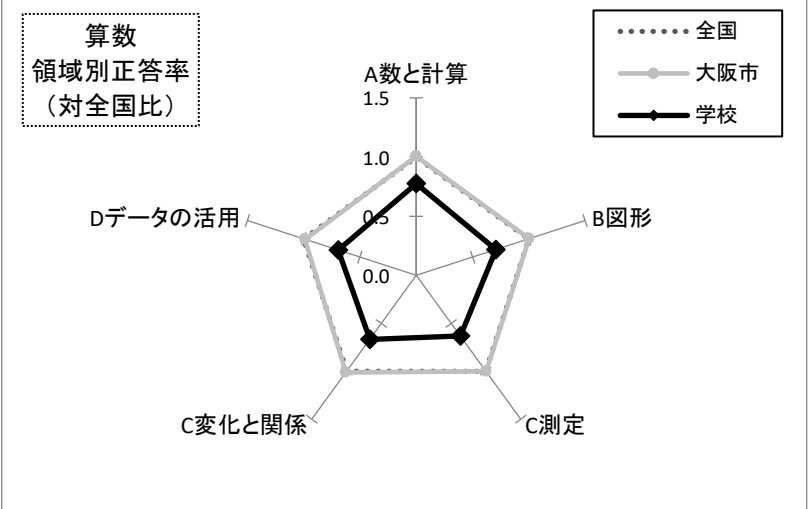
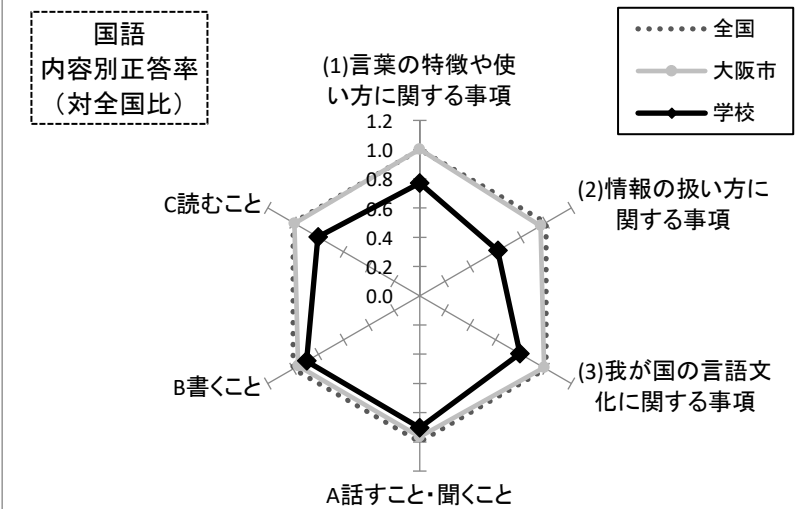
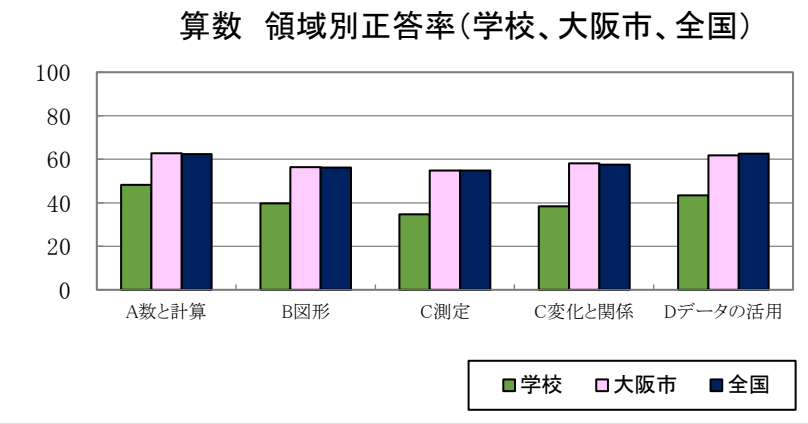
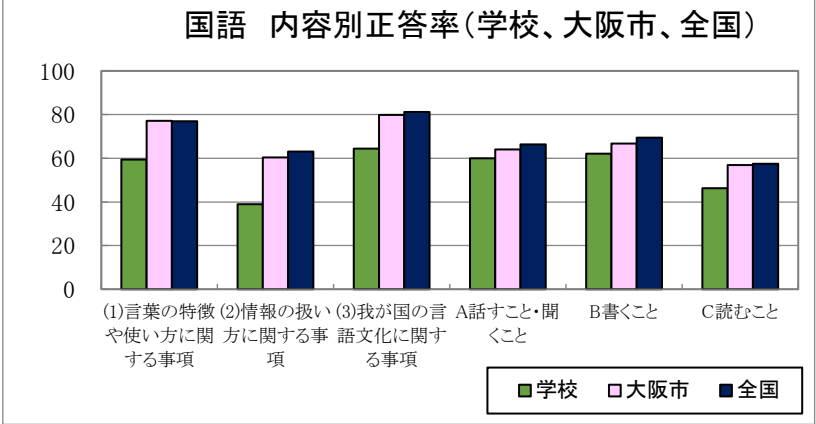


【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	59.3	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	39.0	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	64.4	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	59.9	64.0	66.3
B 書くこと	3	62.1	66.7	69.5
C 読むこと	4	46.2	56.9	57.5

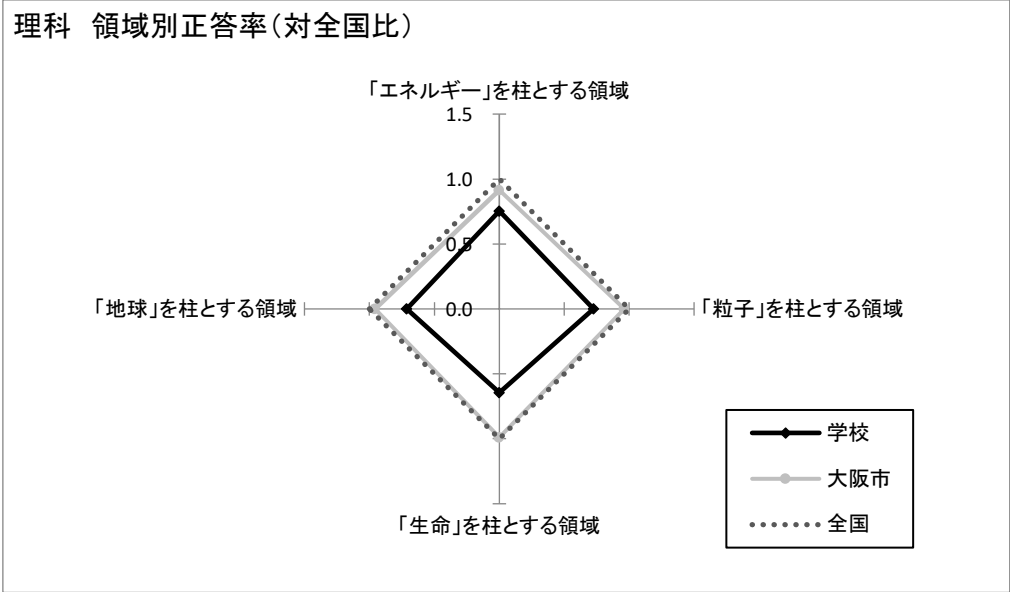
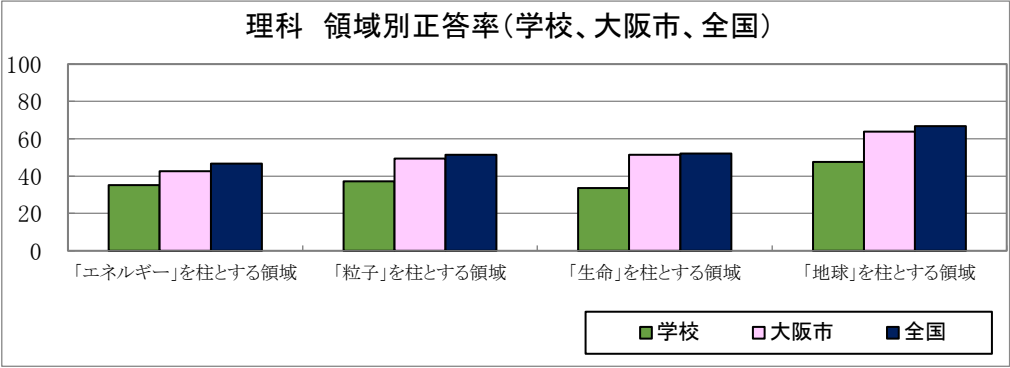
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	48.3	62.7	62.3
B 図形	4	39.8	56.4	56.2
C 測定	2	34.7	54.9	54.8
C 変化と関係	3	38.4	58.2	57.5
D データの活用	5	43.4	61.9	62.6



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	35.2	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	37.3	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	33.5	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	47.5	63.8	66.7



児童質問より

質問番号
質問事項

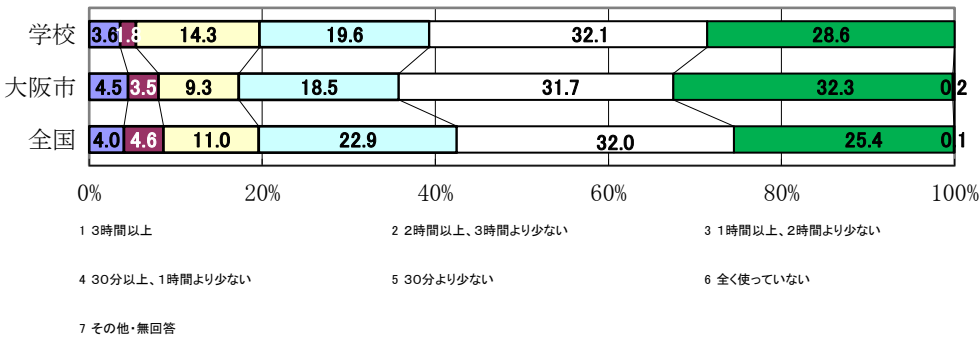
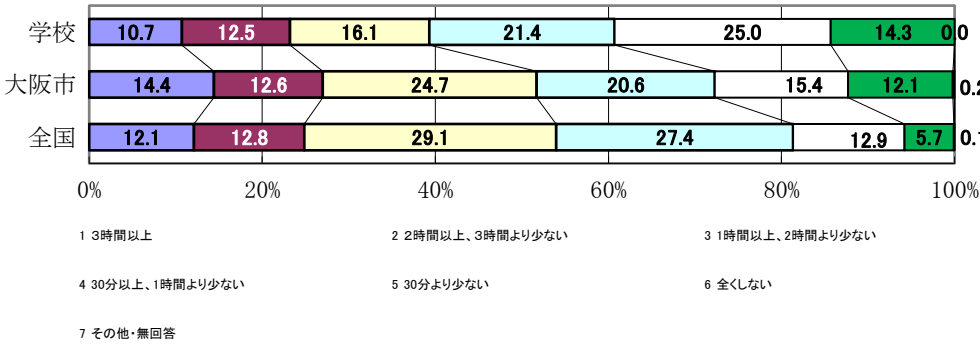
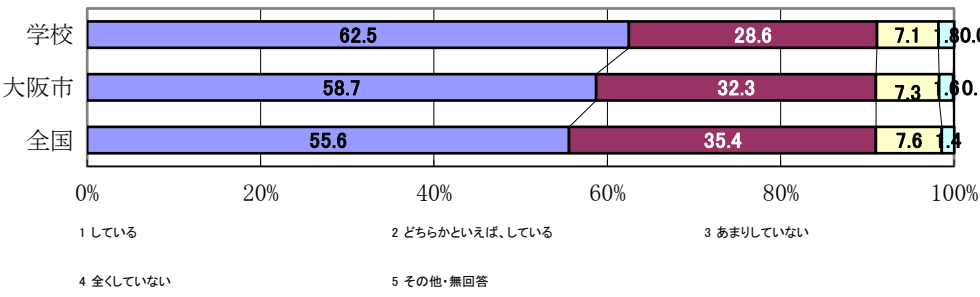
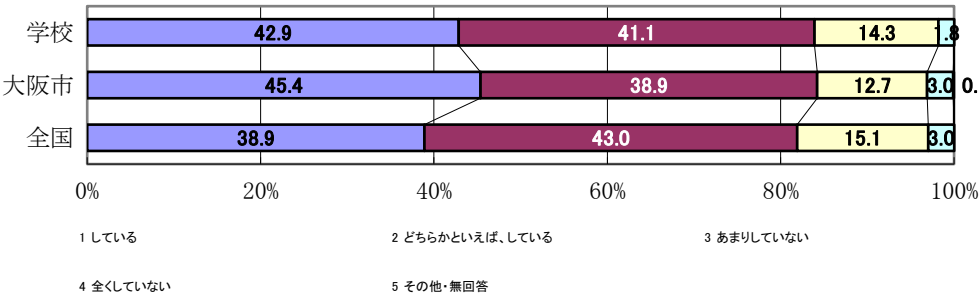
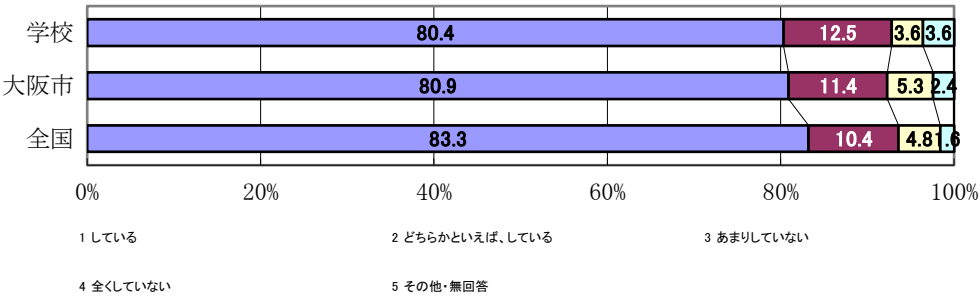
1
朝食を毎日食べていますか

2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

17
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

18
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）



児童質問より

質問番号
質問事項

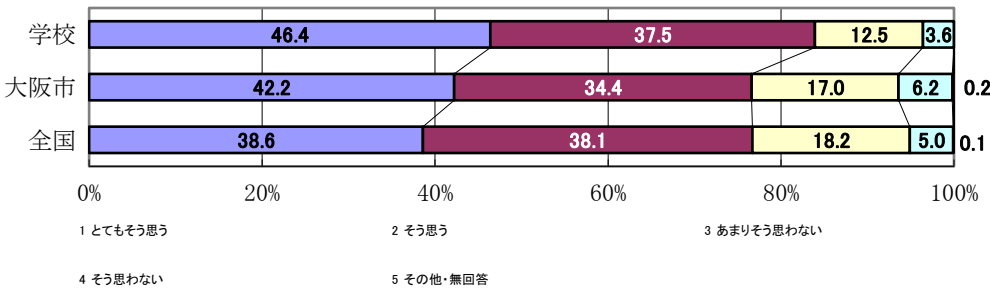
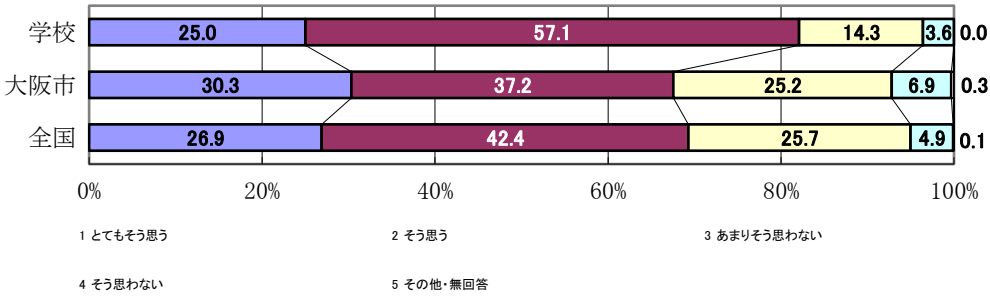
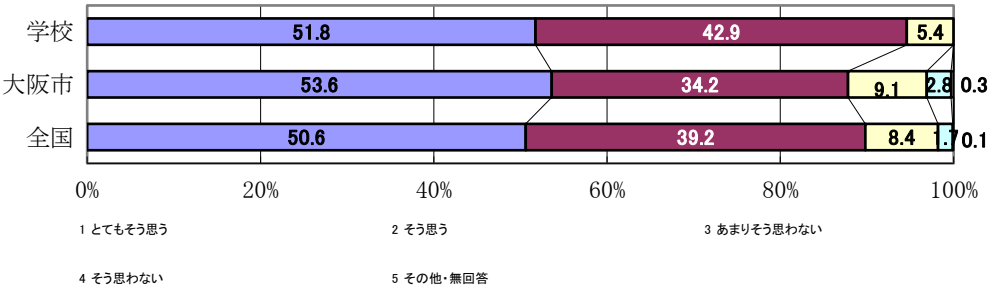
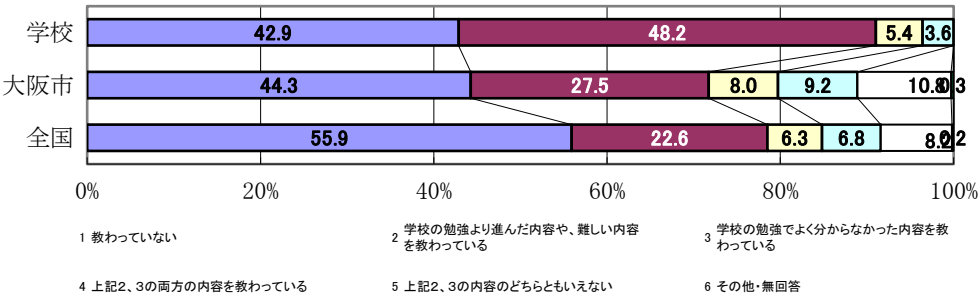
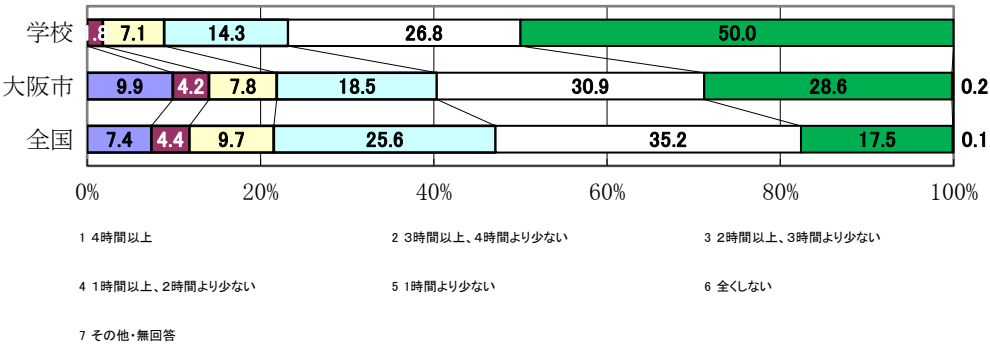
19
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

20
学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（オンライン授業の場合も含む）

73
あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができますか

74
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができますか

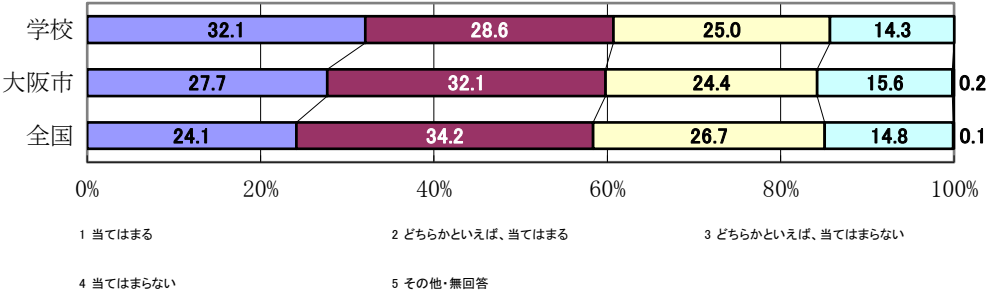
75
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか



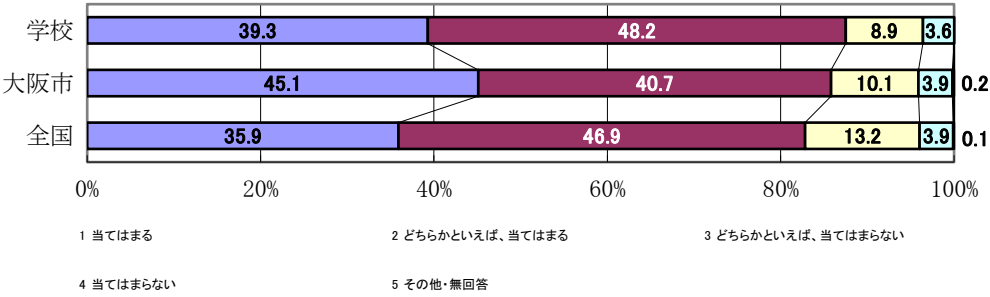
児童質問より

質問番号
質問事項

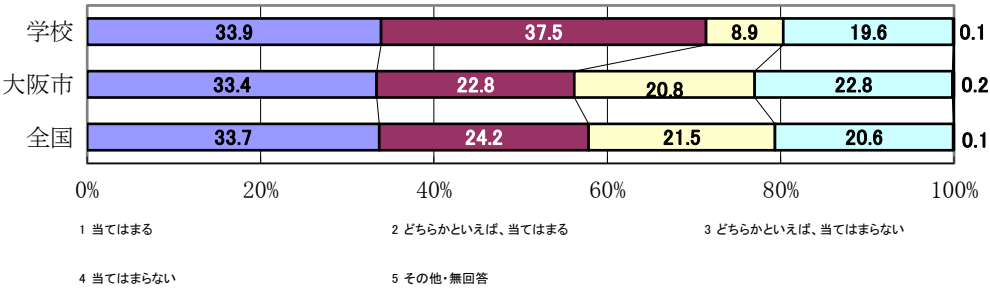
45
国語の勉強は好きですか



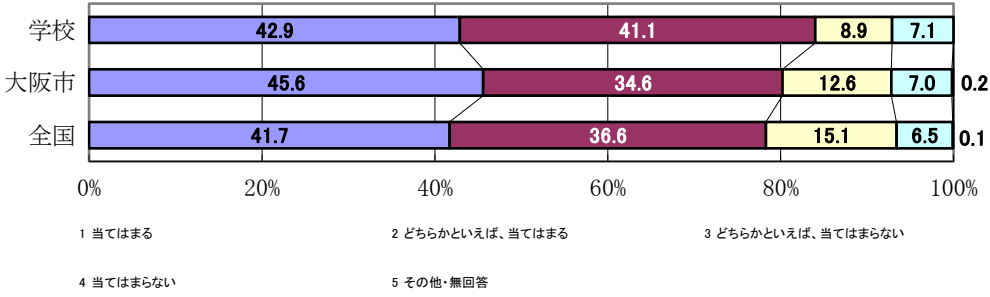
46
国語の授業の内容はよく分かりますか



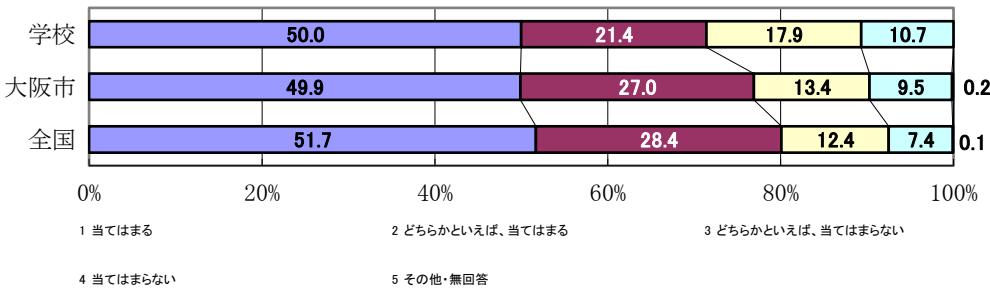
53
算数の勉強は好きですか



54
算数の授業の内容はよく分かりますか



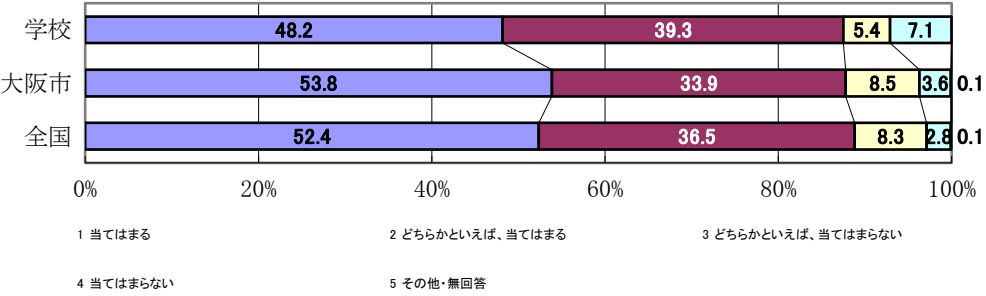
61
理科の勉強は好きですか



児童質問より

質問番号
質問事項

62
理科の授業の内容はよく分かりますか



学校質問より

質問番号

質問事項

25

調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行いましたか

44

調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる指導を行いましたか

46

調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行いましたか

52

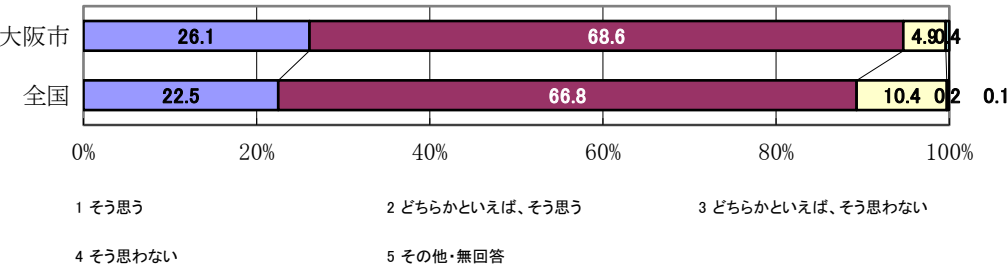
調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行いましたか

58

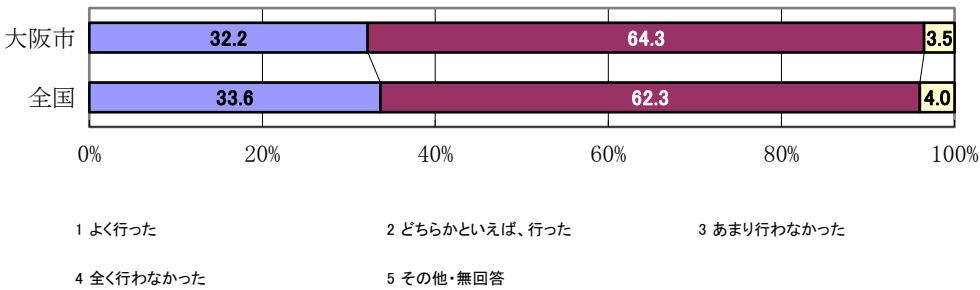
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

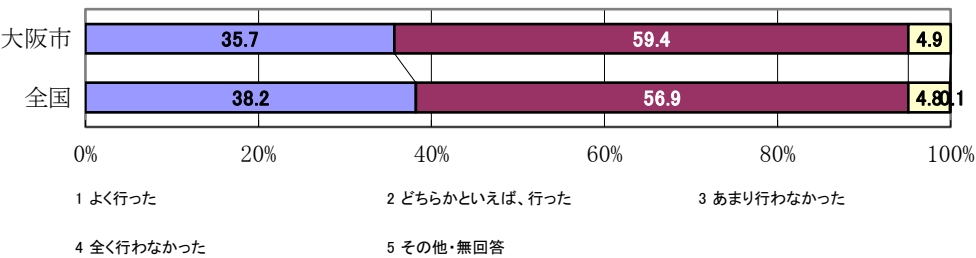
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



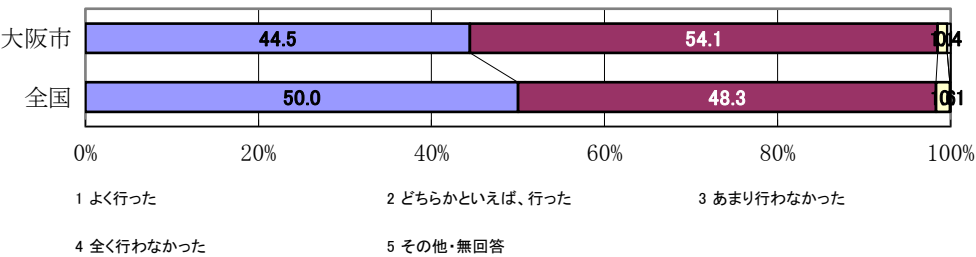
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



学校 「どちらかといえば、行った」を選択



学校 「どちらかといえば、行った」を選択



学校 「ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)」を選択

